

## 2016 年度第 3 四半期決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2017 年 2 月 2 日 17:00~18:00
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 IR グループリーダー 吉田 修
説明資料	2016 年度第 3 四半期決算の概要 及び 2016 年度業績予想の概要

### Q&A

#### ■モビリティセグメント

##### Q1. 第 2 四半期から第 3 四半期、及び、第 3 四半期から第 4 四半期の営業利益増減要因を説明してほしい。

A1. 第 2 四半期から第 3 四半期においては、第 2 四半期に引き続き販売は堅調に推移し、円安影響を取り込んだの増益となりました。第 4 四半期においては、ICT 関連需要の季節差的な調整や原料価格上昇といった減益要素はあるものの、主要製品の需給環境は概ね良好であり、また、引き続き円安進行を前提としていることから、第 3 四半期並みの利益水準が確保できると予想しています。

#### ■ヘルスケアセグメント

##### Q2. 各主要事業の動向を説明してほしい。

A2. 不織布事業における在庫調整はやや長引くも、販売の回復兆候が見られ始めました。ビジョンケア事業におけるメガネレンズモノマーの販売は堅調であり、関連新製品のプロモーションを積極的に打ち出しています。歯科材料事業は、引き続き販売体制の強化を推進しており、北米での販売は、回復軌道に乗っています。

#### ■フード&パッケージングセグメント

##### Q3. 第 2 四半期から第 3 四半期にかけて、営業利益が減少している理由は何か。

A3. 第 2 四半期から第 3 四半期にかけては、コーティング・機能材事業及び機能性フィルム・シート事業の販売は堅調に推移したものの、農薬事業における季節要因等により、セグメント全体としては減益となりました。

#### ■基盤素材セグメント

##### Q4. 第 2 四半期から第 3 四半期、及び、第 3 四半期から第 4 四半期の営業利益増減要因を説明してほしい。

A4. 第 2 四半期から第 3 四半期にかけては、ナフサクラッカー定修差に加え、堅調な国内需要を背景とした設備稼働継続や、石化製品等の海外市況が高水準に推移したことが収益改善に貢献しました。第 3 四半期から第 4 四半期にかけては、海外市況水準が緩やかに軟化に向かう等の減益要因を織り込んでいます。

##### Q5. 主要サプライヤーのトラブルが復旧したにも関わらず、アジア圏におけるオレフィンのタイト感が継続している。何か構造的な変化があった、と考えているか。

A5. アジア主要サプライヤーの大きなトラブルは収束方向に向かったものの、稼働は安定的とはいえず、供給問題は継続している、と聞いています。当社のナフサクラッカーとしては、引き続き、自社誘導品向けのオレフィン供給に注力し、堅調な内需に的確に対応していきます。

##### Q6. フェノール市況の今後の動向について、説明してほしい。

A6. 上期の需給は比較的タイトであったものの、G20 明けの各メーカー供給再開や原料ベンゼンの高騰等により、足下のスプレッドは縮小しています。春の定期修繕シーズンに向け、緩やかな市況改善を期待しています。

##### Q7. ポリウレタン材料市況改善に伴う、営業利益及び持分法投資損益への影響を説明してほしい。

A7. 第 3 四半期に入ってから、事業構造改革による固定費削減効果に加え、市況改善の後押しもあり、基盤素材セグメントの営業利益改善に貢献するカタチとなりました。一方、同事業関連の持分法適用会社にとっては、ポリウレタン材料市況は一部の調達コストに影響するため、市況改善は、持分法投資損益に対してプラス方向にのみ寄与する訳

ではありません。

■全社関係

**Q8. 電解液事業の立ち上がりの状況について、説明してほしい。**

**A8.** 中国を中心に、車載向け需要拡大が顕著となっています。当社としては、他のモビリティ製品群との総合提案での拡販に取り組んでいます。

**Q9. 増益幅に較べ、増配幅が小さいのは何故か。**

**A9.** 当社グループが目標とする連結配当性向は意識しており、期末配当については、第 4 四半期の仕上りを踏まえて検討する考えです。

以 上